

災害時のこころのケア

サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き 原書第2版

著：アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワーク、アメリカ国立 PTSD センター／訳：兵庫県こころのケアセンター／医学書院
定価：1,260 円(本体 1,200 円＋税)／TEL：03-3817-5657

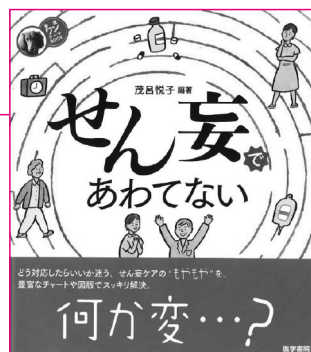
■「こころに傷を負った人」に接するすべての人へ 何をやるべきで、何をやるべきでないのか(本書帯より)。災害に遭った人々への、こころの応急処置(サイコロジカル・ファーストエイド)の日本語版。「本書に貫かれているのは『害を与えない』ことと『回復力を促進する』という態度」だと、訳者代表の加藤寛はいう。インターネットで公開中の本文を、書籍の形で、ぜひ手元に！

せん妄であわてない

編著：茂呂悦子／医学書院

定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■看護ワンテマBOOKの「せん妄」編。「ここが知りたい！せん妄とは何なのか」で、せん妄についての正しい認識をもち、突然のせん妄にもあわてない看護職になろう。「せん妄患者への対応」「せん妄の見きわめ・予測のツボ」を踏まえうえで、「せん妄のケアに強くなる」。アセスメントツールを用いて評価し、要因を可能な限り取り除くことで、予防ケアの立案・実施までが流れを追って展開される。



説明できるエンゼルケア

編著：水原章浩／医学書院

定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■亡くなった患者さんへの「エンゼルケア」は、多くの施設、在宅ケアにおいて一般的になっている。しかし、医療者にとってあたり前の手続きや言葉づかいが、家族の心を傷つけることも少なくない。「生きているときと同様にご遺体を気遣う」(本文より)とはどういうことか。死後のケアでの「声かけ」と「振る舞い」を、時間を追って、またケース別に詳細に解説する。迷ったときにも聞きたい。

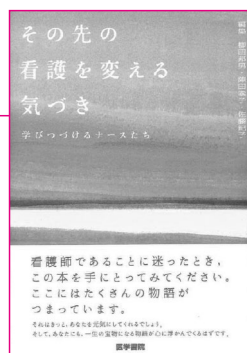
その先の看護を変える気づき

学びつづけるナースたち

編：柳田邦男・陣田泰子・佐藤紀子／医学書院

定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■本誌で毎年募集する「看護学生のエッセイ」の審査員を務める柳田邦男氏と、長く臨床に携わる陣田泰子氏、看護教員である佐藤紀子氏の3人が、それぞれに「看護学生の物語」「いのちの学びの物語」「師長のものがたり」を紹介して、看護師たちの成長に光をあてる。1人ひとりの患者に物語があり、看護師はその物語を共有する存在として常に寄り添っている。それだけで、看護は素晴らしい！





もう、悩まない

「いま」を心安らかに生きるために

著：大下大圓／佼成出版社

定価：1,575 円(本体 1,500 円＋税)／TEL：03-5385-2323

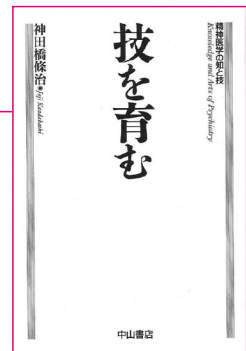
■何かの悩みを抱えたとき、「お寺へ相談に行ってみよう」という人は、現代社会にどのくらいいるだろうか。著者は、大学生をはじめ、医療・看護、教育、福祉に関わる人たちに、スピリチュアリティを説く僧侶。悩みも、心の安寧も、自分自身のうちにあるのだから、生きる意味を「一緒に考えましょう」というスタンスで、日本人が本来もっていたスピリチュアリティを取り戻そうと語りかける。

精神医学の知と技 技を育む

著：神田橋條治／中山書店

定価：2,940 円(本体 2,800 円＋税)／TEL：03-3813-1100

■精神療法の第一人者の半生記が1冊にまとまった。精神医学における知と技の寄与し合う関係をひも解き、自らがどのように技を育んできたのか、その工夫と心の軌跡をたどり、「多くの方々に負担と害を及ぼしてきました」「(おわりに)より」と、進歩ばかりでなく、弊害をも冷静に振り返る。精神科医としての「不安な船出」から、「離魂融合」という独自の面接法に至る道筋は圧巻。



看護の約束

命を守り、暮らしを支える

著：秋元典子／ライフサポート社

定価：2,415 円(本体 2,300 円＋税)／TEL：045-511-8624

■多くの看護職が指針とするナイチンゲールの『看護覚え書』、そして現代日本の看護の業務規程「保健師助産師看護師法」を、看護が社会と取り交わした「約束」と位置づけ、看護師の日常業務のどこに、その理念や、規範、倫理があるのかを、丁寧に紹介する。引用された多くのケースや体験談は、看護を目指す若い人たちに「看護の約束」とは何かを、丁寧にわかりやすく語りかける。

我々の内なる狂気

統合失調症は神経生物学的過程である

著：ロバート・フリードマン／監訳：鍋島俊隆／星和書店

定価：2,730 円(本体 2,600 円＋税)／TEL：03-3329-0031

■「私はこの本を、統合失調症を理解しようとするときに生じるギャップを埋める架け橋にしたいと思います」(「はじめに」より)、との目的で書かれた本書は、著者が主治医を務めたポールとレイチェルという2人の患者の経過を追って展開される。統合失調症を、心と体の2つの側面から同時に検討し、特徴的な神経機序の思考プロセスへの関与を、ビギナーにもわかりやすい表現で解き明かす。

